

第5回 足利市学校教育環境審議会 会議概要

日時：令和3(2021)年12月6日(月)14:00～16:00

場所：足利市役所教育庁舎4階会議室

出席者

委員 人見会長、岩田副会長、須田委員、岡村委員、橋本委員、齋藤委員、赤坂委員、源田委員、増田委員、古川委員 10名(13名中)

事務局 岡田教育次長、菊川教育総務課長、石井生涯学習課長、清水学校管理課長、近藤学校教育課長、蓼沼教育総務課主幹、齋藤教育総務課主任、丸山生涯学習課主幹、小倉生涯学習課主査、菅谷学校管理課主幹、栗原学校管理課副主幹、田代学校給食室長、林学校教育課主幹、真下教育研究所次長

- 会議次第
- 1 開会
 - 2 報告
 - ・市内小中学校の訪問について
 - 3 議事
 - (1) 中学校区教育の推進について(協議)
 - (2) 学校の適正規模・適正配置について(説明) 【非公開】
 - 4 その他
 - ・第6回審議会について
 - 5 閉会

会議の公開について：一部公開

傍聴者数 0名

1 開 会

2 報 告

市内小中学校の訪問について

- 会長 学校訪問に関する情報共有の場とさせていただく。私も協和中学校を訪問し、授業や校長先生のお話を伺い、本当に勉強になった。タブレットを活用した授業を見させていただき、先生子ども達それぞれがんばっている姿を見ることが出来た。参加された委員の方々、参加されなかった委員の方々に関してはお手元の資料をもとに、ご意見を伺いたい。報告という扱いなので、特段決め事とかまとめを目指しませんが、それぞれの情報の共有を以後の議事に役立てる時間とさせていただきたい。
- 委員 今回、運よく全日程に参加させていただいた。山前小、名草小、第一中、協和中を訪問した。その中で、小規模校の中でしか味わえないだろうなという教育の状況を見ると、こうやって先生と子どもが一体感をもって、親密な感じで教育を受けている。分からない所を先生に気軽に聞けるなど、良い環境だと思ったが、先生方の話を伺い、何かトラブルがあった時に子ども達に逃げ場がないと聞き、そうだよなと思った。人間関係などトラブルがあった時は、クラス替えをしてあげるとかできるが、小規模校では出来ないのだと思った。大規模校に行くと、私たちが子どもころの学校は、教室はガヤガヤしているのが当たり前な感じであったが、今回訪問した学校は静粛な中で皆が一つの授業に向かって取り組んでいる姿が見られた。また、図書館では、今月の推薦図書みたいなものが展示されていて、今月はこれがおすすめといった本が5～6冊あった。やっぱり、人手があるという事はこういうところまで手が回るのだなと感じた。やっぱり、ある程度の適正規模というのが必要だと感じている。それらを踏まえて、この審議会に意見をさせていただければと思っている。
- 委員 名草小学校を訪問させていただいた。私の子どもは大規模校で教育を受けさせていただいた。今回名草小学校は小規模校ということで大変興味深く参加させていただいた。先ほどの意見のとおり、小規模校の良さというのを初めて感じた。逆に言うと、これでこの子たちは大丈夫なのかという不安も、同時に抱えた。先ほどの意見もあったが、色々な面で教育の内容とかすごく充実していて、子ども達一人ひとりに先生の目が届く。例えば、10名の教室で、先生が生徒に問いを投げる、そうすると10人全員が答える。だけれども、中規模校や大規模校の1クラス30人以上いる学校で、私も昭和の時代に育ち、そういう学校で育ってきたが、「基本的に発言は挙手だよ。」といった教えを小学生の時に教わってくる中で、この子たちが大人数の中に入った時に対応できるのかなという不安も同時に抱えた。今後この審議会で、適正規模・適正配置という項目もあり、その中で色々皆さんの意見を聞きながら自分も意見を出したいと考えている。

- 委員 第一中に参加させていただいた。何う前の小規模特認校のイメージと言うのがあり、やっぱり小学校から中学校に進学するにあたり、自分の意思や保護者の意見もあるだろうが、自分の意思で学校を選んで通う子が多いと思っていた。現実には、それぞれその学校に来た事情があった。そういった理由も小規模校を選ぶ理由になるのかと思った。足利市外の学校を受験して、その結果で特認校に来る子もいれば、部活動を選んで来る子もいる。それ以外にも色んな環境を新しくしたいといった様々な理由があった。第一中学校の場合は、地元の小学校から上がる子どもは全体の3割強ぐらいしかいない。それが、子どものモチベーションがどうなのかと思った。自分の意思で、結果的にその学校に来た子ども達が多くて、先生方もその子ども達のモチベーションを上げるのが大変かと思ったが、全く逆で、それぞれが目的をもって中学校に進学しているから、モチベーションが高い子が多いというのがすごく驚いた。入学してからは、その個々の目的をもつ生徒達を、限られた先生方がそれぞれ見ていかなければいけない、それがまた、教員の不足ということが課題と、校長先生の話聞いて感じた。現場を見なければ分からないと感じた。これから色んな議論の中で、現場の意見に重きを置かないと観点がずれてしまうと怖いと感じた。
- 会長 最後に大事なフレーズを頂いた。先生方の手応えと苦勞の部分と両方、私たちは知らないといけない。
- 委員 名草小学校と協和中学校に参加した。名草小学校は私の勤務校の学区内であり、お邪魔することもたまにあったが、学び合う姿というのを、じっくり見たのは久しぶりであった。先生方と子ども達の学び合いというのは素晴らしいと感じた。あわせて、協和中学校もほぼ本校と同じような取組み、学び合いということを中心として、学習指導を進めていて、一時期の協和中学校とは違う姿が見られて素晴らしいと思った。そこで感じたのが、学び合いは小規模校、それなりの規模の学校でもできるが、競い合いというと小規模校では難しい部分もあると感じた。ただ、それだけでなく、学校の教育活動をサポートしていただいている地域の方とか、地域ということで考えると、両方とも、おらが学校ということではないが、自分たちの地域に学校があるという事が前提で色んなものが進められて、大人も活性していくという状況も話の中から伺えたので、学校の規模の視点から考えなければならないが、より広く、地域等の願いも含めて考えながら、学校運営をしなければならないと感じた。
- 委員 山前小に訪問していただき、感謝申しあげる。先生方も励みになった。本校のことになるが、訪問を受けるにあたり、5年間の児童の推移を確認したら、100名弱の児童数が減少している。ただ、国や県、それから市の色々な施策のおかげで学級数は2クラスほどぐらいしか減っておらず、35人学級など大変助かっており、教員も加配をいただき、4名ほどしか減っていない。子どもの数に比例して先生の数が減っていないので、このあたりが大きな施策が関係しているのだと改めて感じた。授業の方は、高学年を中心に、タブレット関係を使っ

た授業を見ていただいた。やはり、個人で集中してしまうので、討議をいれたりするのが、バランスが難しいと委員から意見をいただき、大変参考になった。外国人の子ども達が40名ほどいるが、そのうちの約半数は日本語が難しく、個別の指導を受けている。さくら教室というが、そういったところも参観していただいた。担当教員が加配でいるが、大変励みになった。本校も大規模校のようなイメージであるが、空き教室が各階に1～2あり、なかなか有効活用というところまでいかないが、今は発達的に落ち着かない子もいるので、クールダウンの部屋として活用したり、コロナ対応で発熱した場合の部屋として使用したりしている。今後、個別学習など、活用が課題なのかなというところで、訪問の際に考えさせていただいた。協和中学校に訪問した。校長先生を中心に、やはり学校経営方針のもと、色んなことを意図的、計画的に行われており、大変参考になった。特に、小学校と中学校間の連携についての話が大変参考になった。目標を共有していること、校長、教頭、職員の連携も進んでいると大変勉強になった。地域との連携に廃品回収を使っていること等、色々なアイデアが参考になった。

○委員 今回は不参加となったが、訪問結果の資料を読ませていただき、それぞれの学校は特色を生かして懸命に取り組んでいると良く分かった。また、それぞれの課題を意識しながら、校長先生をはじめ、先生方がよくやっていると感じた。委員の皆様方が積極的に質疑され、課題も整理されており、この資料を読ませていただき勉強になった。特に協和中学校の部分だが、タブレット端末の授業の活用の一つに、朝学習のテストを行っていると思った。ますます民間のドリルといった教材が開発され、進んでいくと思う。したがって、協和中学校の成果を周りの学校に波及させていただき、タブレット端末を上手く使うといったノウハウをみんなで練り上げていくと、子ども達の学力向上になり、豊かになると思った。

○委員 山前小、名草小、第一中に訪問させていただいた。まず3校を訪問し、校長先生の明確なビジョンというか、こうしたいという目標が非常に明確で、それが学校運営に有効になっていると感じた。授業については、本当に1クラス10分いたかどうかの時間なので、ほんの一部を見て全てを語ることは出来ないと思うが、タブレット端末を拝見させていただき、協和中の報告書も併せて見た時に、タブレット端末の良さというのは非常に表れている。使い方として良い、こういう風に使えば効率が上がる、こうすると子ども達が興味を持つ、あるいは機能的に学習が進められるといった色んな面がある。それを使ってどのように成果が出ているのか、自己評価も含めて、評価という所が非常に重要になってくる。使っている姿で、よく使っている、上手く使っているだけで見過ごしてしまうと、大切な点を落としてしまうと思った。それから、小規模特認校の第一中と小規模校の名草小だが、小中との違いがあるが、名草小をはじめとして地域のつながりというか、地域の中の学校だなと感じた。学校は地域の

重要な存在だとつくづく感じた。第一中の場合、先ほどの話のとおり、学区の子どもは3割というのを考えた時、PTA活動も含めて、教員がご苦労されている面もあるが、学校の存在意義というものについては、非常に地域とのつながりというものが強く昔からでている。これからも大切な学校なんだろうなと思った。第一中だが、第一中に行くという目的を持って進学するという、その目的と言うのが、これからの自立への道のところで大事になると思う。これは学校選択だけではなくて、授業においてもそうだし、目的を持って何かを行動するというのは、子どもの生きる上ですごく大切である。そういう機会をこれからも作っていかねばいけないと思った。第一中も教員が少ない中で非常に多くの部活動をやっており、大変苦労されていると思うが、教員の数が減少していて、教員の数が少なくても、校務分掌が大小関わらずある訳だし、出張の先生がいれば、その分だけ負担が出てくるわけで、教員の数が少なくなっていくという所は、これからの大きな課題になると思う。外国籍の子どもが、普通に学んでいる。これは非常に素晴らしいことと思うし、これからもどんどん外国籍の子どもが学校の中に入って、割合が増えてくる気がする。その対応が上手く出来ていたと思った。小中学校の連携について、どこの学校も昔からご苦労されており、その成果が出てきていると思う。ただ、中学校区の場合に、第一中が苦労されていて、なんとか西中学区と一緒に始めて始められたと伺ったので、色んな学校、小学校の進学先が分かれてしまう中学校区は大変かと思う。

○委員 山前小、名草小、第一中を見学させていただいた。他の委員が、ほぼ私の言いたいことを言ってくれたので、それを省いた形で何点か感想をお伝えしたい。山前小学校については、タブレットを活用した授業が先を行っているなという印象。ご自身で行った修学旅行をスライドで、各個人が素早く作業している姿を見て、すごいなと思った。空き教室の活用も見学させていただいて、大規模校で多様な児童がいるということで、外国人の日本語の授業も見せていただいた。一対一で素晴らしい授業だったのと、先生に負担がかかっているとの印象を持った。第一中も訪問して、市外、県外、他の地域から来ている生徒が多いということで、通常の中学校に行けないということで、少し消極的な、大人しい生徒が多いかなというイメージで見学したが、全く逆で、一中は柔道が強くて有名だが、そう言った目的を持った方もいれば、こういう意思で私は行くのだということで通われている生徒がいたことでイメージが変わった。先日、現職の教職員と話す機会があり、優秀な児童で一中に行ってみようという子が増えているということだ。親御さんが言っているのか本人が言っているかまでは分からないが、そういった児童が市内でも増えていると、現職の先生から聞いて驚いたところであるが、一中に通っても素晴らしい教育が受けられると実感した。名草小学校は、本当に地域性が強い小学校の授業風景を拝見できた。他の委員が、名草地区に人口が増えたという話をしていたのを思い出して、幼稚

園連合会と話した機会に、その話をしたところ、あそこのお子さんはうちの幼稚園に通っているという話も出た。色々な意味で特色のある学校を視察できたことは良かった。

○副会長 私は名草小と協和中を見学させていただいた。どちらの学校でも、ICTが進んでいくのかなと感じた。タブレットの導入も、いずれどの子も、いつでもどこでも使えるようになるのかなと思った。ただ、学校の授業を考えた時に、どのように、どこで使うか、全てタブレット、あるいはICTで出来るものと出来ないものがあると思う。今後の実践の中で、これはタブレットを使った方が効果的だとかということも分かってくると思う。他の委員から、評価をどうするか、ともう一つ先まで話が出たところだが、期待している。二点目は、学校は地域の中で、とても大切な、重要な存在である。名草小を訪問させていただいて、まさに地域の方々、自治会長さんとか、民生委員さんとか、地域の人々とやり取りして、学校の経営に参画してもらっているという印象を受けた。一中の報告を読むと、三本の松が分からない親御さんが出てきている。3割から4割くらいは分かる、他の保護者は分からない。やはり小規模校でやっている中で、地域とのつながりはどうしても大きい。もちろん大規模校、中規模校もやはり地域の方と協力して、お手伝いをしていただいたり、あるいはご指導いただいたりして進んでいくのが学校経営かなと思っている。

○会長 最後は私ですが、協和中学校のみ参加となりました。三つ感じた。一つは校長先生の明確なビジョン、他の委員さんからご指摘いただいた通りで、学校が難しい状況にあったということを経て、校長先生の示す方向性に皆一体となっていく、これは校内だけでなく、地域にも発信されて、みんなで支えているという姿を見ることができた。学校は地域の中で大きくなっていくということを感じた。二つ目はタブレット活用の授業を用意していただいたのかもしれないが、新しいものが入ってきた時期なので、過渡期なのかなと思う。使い方は今後淘汰されたり、洗練されたりしていくと思う。当日は技術家庭の本棚、私たちは昭和の時代、ノコギリで本箱を作るのを定番でやったが、その設計を3Dでやっているのですが、これを15分やり続けて、ふと不安がある。そういうことをやりつつも、技術科の本来培わなければならない力が、ちゃんと押さえられているのかなというあたりは過渡期だと思う。みんなで知恵を出し合っ
て、こういう使い方が、新しいツールとしての位置付けだろうという。今の子ども達には申し訳ないが、手探りの状態のまま卒業してしまうのかもしれないという感想。三番目は、宇都宮市にも周辺部に特任校がある。やはり光と影の部分があり、本当にきめ細かく子ども達と接して、本当に優しく子どもらしさが出てくると言うのが良い面に見えるが、競争だとか、人をかき分けていくことが必要な部分もある。その辺りが、人数が少ないと難しいと宇都宮でも言われている。今回の訪問でも、委員の皆様から共通して意見をいただいたので、どこをどういうふうに残して、どこかは制御せざるをえないのかなという

のが、今後の議論なのかなと感じた。報告の部分は特段のまとめは行わないが、議事録の形で残ると思うので、次への議論の資料にしていきたい。

3 議 事

(1) 中学校区教育の推進について（協議）

【観点1 義務教育9年間の連続性の確保】

- 会長 義務教育9年間の連続性の確保について、現状と課題が事務局から整理され、言い尽くされているという感はあるかと思うが、この辺りに肉付け等、新規でご意見をいただきたい。現状のところにも具体的なフレーズが入っており、例えば、育てたい子ども像を共有すること、これは小学校、中学校で、大前提のこととなる。それから、学習内容については、系統性、連続性のある教育内容、指導方法。付け加えることも少ないと思うが、どうか。
- 委員 小中学校の連携、中学校区教育は、色んな工夫をされて、校長先生方、教頭先生方、教員同士の交流、授業を見合ったり、中学校の先生が小学校に行って授業をしたり、かなり進んでいると思う。その中で、小学校と中学校とその学校区によって、課題という部分で共通の課題、さらに具体的にアンケートや全国学力テスト、とちぎっ子のテスト等があるかと思うが、学力の面、生活の面とか数字的に見て、中学校区での課題は何なのかという所を明確にして、取り組んでいると思うが、明確な課題把握が重要になると思うので、今までのテスト等を活用して、印象ではなく、具体的な根拠で課題に取り組んでいただきたい。
- 会長 大学ではエビデンスとよく言われるが、調査結果に基づいてという意見をいただいた。学校現場の意見はどうか、連続性のある指導方法を工夫すると現状にあるが、小学校と中学校の指導は当然違うが、共通する部分もあるので、先生方の研修と絡めてどういった辺りが良いかお聞きしたい。
- 委員 北中学校区は北郷小・名草小・大月小の4校で連携している。先ほどの委員から意見があった、印象ではなくという部分であるが、この夏、全国学力調査ととちぎっ子の結果の分析をかけた。中学校ではここが出来ない、小学校ではここが出来ない、そこが一致するものが若干あった。そこで、どうして出来なかったのかを小学校と中学校の先生方が話し合いをした。もしかすると、小学校4年生の部分が分からないから、中学校の部分が分からないのかもしれない等の課題を洗い出した。その課題について、中学校の先生の方は専門性が高いので、中学校の数学の先生が、小学校の算数について、このような指導があるのではないかと小学校の先生に提案した。そのような検証を行い、実際に授業でやってみようというところで夏の研修が終わった。次年度以降も同様に検証して、もし当たっていれば北中学校区で小中の連携、連続性が出てくるのではないかと思い、取り組んでいる。合わせて、北中が、学び合い支え合う授業づくりを学校課題として出しているが、これについては、小学校の3校も同様な学校課題を含んでいる。足利の小中学校は学校間連携を行っているが、特に北中学

校区では、4校については自校の授業を見せ合っているのが現状。昨年あたりからは、英語の授業、中学校の英語教員が小学校に出向き、小学校6年生に模擬授業を実施している。その中で、小学校6年生で夢を語る單元があるが、そこと中学校の2～3年生にも同じような單元があるので、同じ夢を題材にして、こんな指導をしたらどうかと小中学校同士の教員で相談している。以前の学校でも同じような連携をしていた。中学校の先生と生徒が小学校に来て、英語を教えてくれた。中学生が小学生を相手にグループ討議をやりながら、英語って楽しいと小学生が知り、中学生になるとあんな風に英語が話せるようになるんだなという感想を持ってもらった。教員間の交流、児童生徒の交流が進むと、より良い連続性が出てくるのかと思う。

○会長 貴重な意見をいただいた。小中学校間の良さと難しさがあつた。課題には、小中一貫したカリキュラムについてもあるが、いかがか。本市独自の特設教科も課題に挙げられているが意見はどうか。特段なければ答申の中に軽く触れることとしたい。

○副会長 特に小学校と中学校の9年間の連続性と言うのを考えると、色々な試みをどの学校もどの地区もやっていると思う。学校の距離的に近いとか遠いという問題もあるが、夏休みの研修とか、授業交換をするとか、授業を見に行くというのも試みられていると思うので、更に進めてもらいたい。しかし、時間的な余裕がない、平日、隣の学校を見に行こうと思っても、自分の教室が空いてしまう、誰が見てくれるのかという問題も発生する。時間的なこと、職員のゆとりが必要と思う。私の経験で、ある先輩が数学の先生だったが、いままで勉強してきた分からないことがいっぱいあつた。ある先生に教えてもらった。小学校は小学校だけの算数、中学校は中学校だけの数学、これではだめだと言われた。ふと思って、その先生は小学校の教科書を見て勉強した。どんな流れで、どんなふうに算数が組み立てられて、中学校に引き継いでいると。その時に初めて、やっぱり系統性、特に算数数学は系統性の色の濃い教科だと思うが、どの教科もそういう事をやらなければだめだと教えられた。自分は社会科であつたが、そういう先生自身の中にも、教科の連続性、9年間の学校全体で子どもが成長していく上での連続性を勉強する必要があると思った。

○会長 連続性の捉え方、難しいところであるが整理していただいた。それでは、私の方で、出していただいた意見をおさらいしながら整理させていただきたい。方向性として大きくまとめて、別の機会に答申案の下書きの時に、加除修正をしていくスタンスでお願いしたい。三つ挙げられると思う。一点目は、小・中学校がそれぞれの特色を生かしながら、義務教育9年間を見通した育てたい子ども像を共有して、系統性・連続性のある教育内容・指導方法を工夫していく必要がある。委員からあつたとおり、中学校区は皆同じではなくて、それぞれ特色があり、違いがあるわけで、その学校の特色を前面に出して頑張っていたいただきたいというのが前半。それから授業の話になるが、系統性・連続性という所

がここに含まれる。二点目はそれを少し取り出して、授業に焦点を当て、教科の系統性、学びの連続性を大切にするというフレーズでまとめたらどうか。教科の系統性、学びの連続性を考慮して、小中連携を一層推進していくという言い方なのかと思う。副会長からあったとおり、教科というのは小中学校共通して積みあがっていくので、学習内容の系統性は大切。それから子ども達、私たち人間は発達するので、学び方もだんだん変わっていく。両輪である。教科が積みあがっていくことと、人間が発達して複雑に高度になっていく、それを9年間の中できちんと授業としていこうということ。その中には、委員からあったとおり、小中学校間の交流とか、先生同士の研修などが重要な場になると思う。交流には先生の交流、子ども同士の交流もある。様々あるので一言では言えないが、そういった小中の連携を大切にすることを確保していくこと、先生の教え方をきちんと小中の先生方で共有していく事、それが指導内容・指導方法の工夫にも一つ目ともつながる。三点目は、課題を適切に把握していくこと。印象論で語らないというフレーズもあったとおり、各種データに基づき、分析を通して、小中学校の共通の課題、あるいは個別的な課題というのを、データを基にして議論するところから、9年間の学びを良くする方向につなげたらどうか。国の学力調査もコロナで時期がずれたりしたが、毎年実施しているし、とちぎっ子などもある。ただ学年が異なるため、上手く活用しなければならない。そのような三点、まとめさせていただいた。少し足りないかもしれないが、議事録の中で検討いただきたい。何か追加があればお願いしたい。無いようなので次に移りたい。

【観点2 地域との連携・協働】

- 会長 こちら資料にあるとおり、現状と課題があるが、答申するにあたり、重要なフレーズが含まれているが、ぜひそれぞれの立場から、ここを強く押した方が良いとか意見を頂きたい。
- 委員 地域との連携について、現状で4つ記載されている。確かにこれが現状だと思うが、果たして、このとおりの形のいい系列で良いのかと考えてしまう。全ての学校が地域の教育力を活用し、児童生徒の教育の支援を受けている、と記載されているが、現実問題として、その地域の人たちが、どれだけ地域の子どもの事を考えて、実際何名が、地域子ども達のために何かをしているのかというところを考えると、私が思うに、1桁台の割合だと思う。交通指導員や登下校の見守り、図書館ボランティア等、各学校で多くても10名程度ではないか。果たして、これで地域子ども達を支援しているのか、ということに疑問を抱えている。項目として、もっと大きな枠で、各地域の自治会等との交流とか、そういった取り組む項目を挙げたらどうかと思う。現状で、ボランティアとして学校に協力してくれている方たちの事を、地域の自治会長が知らないという

ことも間違いなくあると思う。こういったものを、地域でも学校を支えるという風潮をまず作り上げていくのはどうなのかなと考えた。

○会長 自治会との交流支援を受けて、といったフレーズが入ると、提言として発信力が増すと思う。

○委員 地域との連携ということで、20～30年前から学社連携という言葉があって、青少年育成会として勉強をしてきたが、実際には、連携は上手くいっていたのかな、と思う。バラバラにお互いが動いていたのかなと思う。矢場っ子は、素晴らしい活動だと思う。今薄れているのは、地域と学校の中で、特にこの2年間は、コロナで学校の運動会、入学式卒業式等に関しても、地域の自治会の方も、各種団体の方も、子どもの活動の様子に触れることが出来ていないので、それを強く感じてしまう。もっと情報を、学校側も自治会等からも発信したものを、お互いに持ち合うというのが必要なのかと思う。実際、私の住んでいる所では、10年ほど前から各学校の年間の予定表を出していただき、各育成会の行事とバッティングしていないかの確認とか、この行事には応援をお願いしたいとか、年度の初めに行う。他の地域ではどうなのか。果たして、そうした連携が各地域で出来ているのかが心配だ。各学校での現状はどうか。

○委員 北中学校区では、名草地域は小学校中学校の情報と地域の情報がしっかりと伝わって、色んな取り組みを行っていると思う。ただ、コロナ禍でイベント自体が中止になっており、これから上手くつないでいく必要があると思う。現状で言うと、そこは弱くなっている認識。北郷地区では、規模的に大きく、なかなか連携がしにくい部分がある。ただ、育成会については色々協力していただき、こちらの方も中学生ボランティアということで、各育成会の色々なイベントで子ども達が応募して活動していることがある。コロナの関係で、色々なイベントが中止になっていることも関係している。

○委員 コロナの関係もあるが、地域と学校の関係が薄れている気がする。

○委員 自治会の役員をやって感じることもあり、中学校区教育の推進と言う事で、本市が一生懸命取り組んでいる。この会議で知ったが、学校の先生方が交流し、授業を見合ったりするなど、これだけ子ども達のために、9年間を見据えた系統性のある教育を行うということで実施している。この情報を地域の方々に知ってもらおうという事が、皆さんの議論を聞いて非常に大切と感じた。その中で、あしかがみと一緒に公民館から色々な回覧文書が回る。その中に、必ず毎月御厨小学校の「はらっぱ」という学校だよりも一緒に配られる。そういう書類を見ると、学校でこういう行事があるのかと知ることができる。こういうことによって、学校への関心が高まると思う。なので、そういったものの中にぜひ、本市の取組、これだけ中学校区教育の推進をしているという事を少しでも分かってもらえれば、子どもへの見方も変わるだろうし、地域の協力も得られやすくなるのかと思う。この審議会の委員をやって、御厨小学校とか協和中学校の前にも垂れ幕が掲げられている。そうした取組をやっていることを少しでも地

域の方に知ってもらおうと、すごくいいと感じた。もう一つは、学校と地域に対して、私が自治会で困ることは、自治会での活動に子ども達が参加してくれる、それだけで地域は活性化する理由になるし、お年寄りも元気になる。だから、学校からも、地域の色んな行事に参加するように促して欲しいと思う。そうしたことを通じて、地域と学校が盛り上がるのではないかと思った。

○委員 今年が出来なかったが、学校評議員に関して、中学校区の4校でバラバラに選ばれている。その関係で、学校評議員が一堂に会して、北中学校区でこういう事をやっている、という機会を捉えられないかなと思い、北中学校区内の4校長で話し合いをした。今、学校の教育活動を考えると、地域に色んなことをお世話になるが、そのコーディネートを、学校評議員にもっとやっていただいてもいいのかなという意見があった。現状は、学校にそれぞれ来ていただいて意見を伺う。そのような形になっているので、もっとコーディネートをしていただけるような場を作っていければいいんじゃないか、と言う事を話し合っている。北中学校区の中では、総合の時間を使って、共通して行っているのは、地域のふるさとを知ろうという機会がある。その時に、学校評議員たちを通じて、コーディネートしていただいて、実際にその場に行ったりとか、お話をお聞きしたりとか含めて、もっと北中学校区に子ども達が意識して、それが足利市とか栃木県とか広がりつつの、心の教育も含めた学習が出来れば、と考えていたのが今年度であったが、残念ながら、今年度はコロナで中止になってしまった。

○委員 地域との連携ということで、先ほど矢場っ子の話も出てきた。私が住んでいる地区は委員も校長先生でいらっしゃり、私は地域の自治会長として、一緒に活動している。学校の目標と、地域の色んな、矢場っ子は矢場川の子も達をこうしたい、矢場川の風と言うボランティアもあり、矢場川の子をこうしたいといった思いがある。それが、学校との連携の中で出てきたものではなく、自分の解釈として、こういう風に子ども達に関わっていこう、こうしたら、いいだろうという部分が共通。良い子にしたいという共通部分はあるが、明確な共通意識というか、課題意識は共有出来てはいない。学校の機能、学校の施設面とかそういう面については、どこの地区でも小学校なり中学校なりの校庭を使い体育祭を行ったりとか、放送器具等を使ったりとか、協力していただいている部分がある。後は、機能的な部分として、先生方の負担になっては困るが、うちの地域の場合は、地区の文化祭をやった時に、食堂で先生方が来て、自主的にバンド演奏をやってくれた。非常に盛り上がった。そういった部分で、先生も地域の為に、行事に積極的に参加してもらえるとありがたい。ただ、先生方の負担になっては申し訳ないので、あくまで自主的な活動になると思う。どこかの学校で聞いた話だが、学校の機能としてのコンピューター室で、地域の人、例えば老人会の人に来てもらい、先生がパソコンを使い、地域の人に、使い慣れていない人に年賀状を作ってみようだとか、そういう取組もあった。それぞ

れが、あくまで地域や学校の協力だけではなくて、学校としてできることは何か無いかということもある。連携というのは、それぞれが、どっちにかぶさるのではなく、お互いに同じ目標に向かって進んでいくことだと思うので、学校は学校教育目標の中で行っているが、地域は目標に向かって、こういう所で協力していこうという所が重要なのかと思う。今はコロナで中断していると思うが、家庭教育懇談会がある。教育長も参加していただいて開催するものだが、各地域の人や学校の先生方が集まって、地域の課題を一緒に話して、課題解決に向かって取り組めると良いのかと思う。それぞれが、同じ方向に向かっていくという事が良いことと思う。

○副会長 地域との連携という中で、民生委員や主任児童委員の協議会というのが各地区にある。これも大切な連携の一つになると思う。特に、家庭的に恵まれない子どもとか、経済的にも厳しい世帯の子どもの行動とか、あるいは日ごろから気になるお子さんがいるなどという情報を、民生委員とか主任児童委員もつかんでいる。そういう中で、プライバシーの問題もあるが、主任児童委員と校長先生の連携、場合によっては、時間的余裕があれば、民生委員や児童指導・生徒指導の先生との交流、情報交換も考えられる。学校の支援してほしいポイントや、主任児童委員がつかんでいる情報を、学校への情報提供もあり得る。そういう事も必要かなと思う。あわせて、校長先生は、民生委員、主任児童委員の協議会の中で、こんな学校経営をしますといったビジョン等を説明するもの良いと思う。

○会長 このあたりで区切らせていただき、後日表現等をご確認いただきたい。会長として、フレーズを絞るのが難しいが、二つの方向性かと思う。まず、地域との連携という言い方で議論してきたが、家庭というフレーズが無かったが、大事な所なので家庭をいれさせていただく。一つ目は、学校・家庭・地域において、育てたい子ども像を共有していくことが何より大切である。共有した後、子ども達の成長を支えていくという事につながる。地域と学校の思いが重なっているかどうか、お互いに支え合う態勢であるかどうかということが込められている。学校教育は目標という言葉を使う。地域は願いという言葉を使って、子ども達にこういう大人になってほしいと思っている。育てたい子ども像の共有には各論になるが、学校の目標と地域の願いのすり合わせといったフレーズが後から入ると思う。そのあたりが、学校・家庭・地域が、同じ方向を向いていくということ。別々にやっては効果が薄いので、今後乗り越えて欲しい。二つ目は、体制を作っていく事かと思う。学校と家庭、学校と地域が連携・協働していく体制・仕組み等を構築していく必要がある、あるいは方法を検討していく必要があるといったところ。これには多くの意見を頂いた。一つの事例で言えば、自治会との交流・支援をいただきながらといったフレーズが考えられる。他には学校評議員の役割について、学校と地域をつなぐ役割を担ってい

ただいたらどうかという意見もあった。他にも民生委員さんはじめ、課題を抱えるお子さんやご家庭とのつなぎ役をその道の専門の方に活躍していただく。その他の意見について全てを盛り込めないが、色々なアイデアをもって、学校と地域、学校と家庭が連携・協働していく体制・方法を充実させていく、構築していく。今は上手くまとめられないが、後ほど議事録でご確認いただきたい。後は各論とするか加えるかは後ほどの議論としたい。以上、2つの方向性としたが、どうか。意見は無いようなので、このようにまとめさせていただきます。

(2) 学校の適正規模・適正配置について（説明）【非公開】

○事務局 「学校の適正規模・適正配置について」、事務局より説明。

4 その他

○事務局 第6回審議会日程についての連絡。

5 閉 会